



録画配信の
2次元コード

菅野 淳
創造

七夕まつりの「花火大会」の永続的な開催を

◆2024年の花火大会が中止となったことは市民にとって大きな「衝撃」となり、次年度以降に再開を求める声が大きくなった。

Q 2024年に中止になった理由は。

A 環境経済部長 従前からの課題であった花火の燃えかす対策に加え、花火大会の混雑具合などを考慮し、安全強化が必要であるため、花火の打ち上げを見送ったもの。

◆花火の玉を小さくして燃えかすの量を減少

Q 市民の要望に応え、今年は開催されるが、諸問題をどうクリアしたのか。

A 環境経済部長 打ち上げ場所を以前の入間川小学校北側の河川敷に変更し、燃えかすについては花火の玉を4号玉から2.5号玉へ変更することで燃えかすの量を減らし、さらに落下範囲も狭くなることで近隣住民への影響が少なくなる。また、混雑に関しては迂回ルート等、対応策を講じていく。

◆安全管理強化、住民との合意形成

Q 花火大会を永続的に開催していくための今後の課題とは。

A 環境経済部長 警察署や関係機関との連携等による安全管理体制の強化と、地域住民との丁寧な合意形成が必要である。



花火大会を続けて欲しい……



録画配信の
2次元コード

豊泉 正人
健政会

公共サービスをデジタルの力で維持・強化し、持続可能な市政を!

◆公開型デジタルマップ「さやまちマップ」～窓口に出向く手間がかからない～

Q さやまちマップの目的や効果は

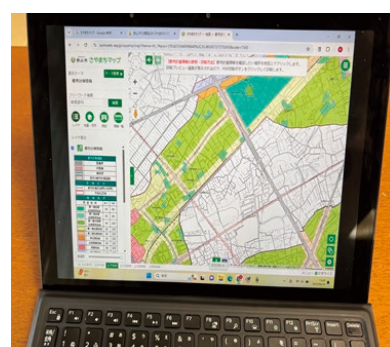
A 都市建設部長 いつでもどこでも必要な手続や情報の確認等を行うことができる「行かない窓口」の一環として、本年1月、市民や事業者の利便性向上と職員の業務効率化を目的に、都市計画や道路などの地図情報をインターネット上で確認できる公開型GIS、通称「さやまちマップ」を導入した。

◆生成AI活用で行政サービスの利便性向上～職員の業務効率化や負担軽減に効果～

Q 今後生成AIをどのような業務でどのように使用できると考えられるか

A 企画財政部長 行政サービスの利便性向上のため、自動生成チャットボットを活用して、24時間、365日体制でAIによる回答が行えるようなシステム導入の検討が必要であると考えている。

また、相談記録等の自動要約機能の利用により、文書化や要点整理などを漏らさず、短時間での確に伝達できる事で、職員の業務効率化や負担軽減に高い効果が期待できると考えている。



さやまちマップ画面

その他のテーマ▶ほりかねデマンドバスについて／標準
準拠システムについて